

学校目標・経営方針	将来、日本や国際社会の様々な分野で活躍し、社会の発展に貢献できる人材の育成を図る。
-----------	---

山梨県立甲府南高等学校長 星野 真理

本年度の重点目標	1 活用力や探究力を高める授業を展開し、確かな学力の定着を図る。	達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	2 様々な体験を通じて、他者を思いやり、社会の絆を深める「しなやかな心」を育てる。		B 概ね達成できた。(6割以上)
	3 体育活動・文化活動を積極的に推進し、心身共に健全な生徒を育てる。		C 不十分である。(4割以上)
	4 生徒の個性を活かし、自己の生き方・在り方を考えさせる進路指導を積極的に行う。		D 達成できなかった。(4割以下)
	5 スーパーサイエンスハイスクールにおける主体的・協働的な探究活動を深め、課題解決能力を育てる。		

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価						
番号	評価項目	本年度の重点目標 具体的方策	方策の評価指標	年度末評価(2月22日現在)		
				自己評価結果	達成度 成果と次年度への課題・改善策	
1	活用力や探究力を高める授業を展開し、確かな学力の定着を図る	目標と指導と評価の一体化を目指した授業により、生徒の思考力・判断力・表現力を養う 生徒の主体的で協働的な学習により活用力・探究力を高める 文章を書く機会や発表する機会を設定し、言語活動の充実を図る	授業参観 授業アンケート 学習の記録表 課題の状況把握 定期試験への記述問題 発表における総合評価	・プロジェクター、ホワイトボードなどの教具の利用や教材選定の工夫、図書館を活用した授業実践など、生徒の主体的な学習活動を促すための授業改善を推進することができた。 ・アンケートによると、課題の負担が重いと感じている生徒がやや増加傾向にあるが、生徒は概ね課題に取り組む自らの姿勢を評価している。 ・各教科で定期試験に記述問題を出し、生徒の思考力や表現力の向上に努めた。また「フロンティア探究」や日頃の授業において、対話によって生徒が理解を深める取り組みを行った。	B	・校内の相互授業参観の活性化、教科会議の研修の場としての位置付けを通して、指導法の共有を図り、授業改善を継続する。 ・目標、指導、評価の一体化を図るため、課題確認試験における目標を明確にした課題設定に努めるとともに、課題への取り組み方やその意義について理解を促している。 ・図書館を利用した授業時間は大幅に増えた。利用しやすい雰囲気作りとともに生徒が自然と本に親しむ機会を増やして生徒の言語活動を充実させていく。
2	様々な体験を通じて、他者を思いやり、社会の絆を深める「しなやかな心」を育てる	ボランティア精神の啓蒙に努め、主体的なボランティア活動を推進する 通学時マナーアップ運動と連動した安全登校や挨拶・身だしなみの指導を展開する 道徳教育を推進し、しなやかな心を持つ、人間として調和のとれた生徒の育成に努める 関係機関との連携やスクールカウンセラーの活用により、教育相談の充実を図る	ボランティア1000回運動 環境委員会活動 インターアクト委員会活動 遅刻者数の統計調査 事故違反者数の統計調査 LHRでの活動 各種行事等の実践事例 学年保健連絡会実施	・ボランティア1000回運動は今年度も目標を達成できた。生徒自らが受け入れ先を見つけて参加する事例が増えている。 ・安全登校指導では、年3回PTAの協力も得て実施した。各回の反省を生徒向けの通信により伝えることで交通安全への意識向上を図った。バイク通学者集会では、安全協会から借用したDVDにより原付バイクの危険性を再認識できた。 ・ネット関連の社会問題に対応するため、少年対策官を招聘したネットモラル教室を実施するとともに、道徳の内容を含めた身近な主題設定によるLHRを、相互授業参観とした。 ・年140時間のスクールカウンセリングを実施し、生徒と保護者また、教職員への相談体制の充実を図った。学年保健連絡会を年5回行い、個への対応状況を全体で共有し問題解決に向けて努力した。	B	・生徒会やインターアクト委員会を中心に広報・啓蒙活動を充実させ、自発的なボランティア活動が増えるよう工夫した。 ・バイクによる交通事故、違反は通学者集会で事例報告を繰り返し行い、継続した意識向上に努める必要がある。自転車、バイクの事故件数は昨年度より減少した。 ・LHRの相互授業参観を継続するとともに、HRTが日頃から考えている身近なものをテーマとして、LHRで道徳の内容を扱っていく。 ・学校での人間関係だけでなく、家庭環境や親との関係で悩む生徒が増えてきている。保護者や担任と協力して問題解決に努め、必要に応じて外部機関との連携を行っている。
3	体育活動・文化活動を積極的に推進し、心身共に健全な生徒を育てる	部活動を計画的・効果的に進め、学校の活性化と生徒の心身の健全な育成に努める 文化的・教養的行事等を通じて生徒の豊かな感性の育成に努める 体育的行事等を通じてスポーツに親しませ、体力向上に努める	各種大会の結果 部活動への参加率 外部参加者へのアンケート調査 新体力テストの実施 生徒アンケートの実施	・県総体では男女とも総合順位を下げたが各部が健闘した。例年通り全国総体、総文祭、関東大会出場など体育局、文化局とも好成績を挙げることができた。 ・線陽祭には2000人弱の来場者あり、地域に開かれた学校として定着している。 ・学校行事や定期試験等多忙な中ではあるが、歌声コンクールに熱心に取り組む、高水準の合唱を割り上げ、好評であった。 ・運動会・球技大会で、クラス・ブロック間の親睦を深めた。	A	・県大会での入賞は厳しい状況であるが、限られた練習時間での効果的な練習方法を工夫してきている。 ・線陽祭は来場者が多数となるため、昨年度以上に危機管理を検討してきた。 ・歌声コンクールでは12月開催。学校行事や定期試験等多忙な中で課題曲をなくして短時間練習で対応した。レベルの維持が課題である。 ・体力増進に力を入れ、心身ともに健全な生徒の育成を目指す。
4	生徒の個性を活かし、自己の生き方・在り方を考えさせる進路指導を積極的に行う	ホームルームや総合的な学習の時間を中心に、体系的プログラムによるキャリア教育を推進する 進路希望に応じた課外・模擬試験・学習会等を効果的に行う 主体的な活動を通して、自己の進路と社会の諸問題を結びつけて考えさせる	発表における自己評価 及び相互評価 課外の実施回数 生徒アンケートの実施 講演会や講話の実施 小論文指導	・総合的な学習の時間やフロンティア探究を中心に、3年間を見通したキャリア教育を推進する中で、体系的・計画的に実施することができた。 ・生徒一人ひとりの状況に応じた個別指導の機会を設け、生徒個々の進路目標に向けた丁寧な指導を行うことができた。 ・1・2学年のフロンティア探究の中で、探究型の進路学習を設け、社会の諸事象に関心を抱かせるとともに、主体的な取り組みにもつなげることができた。	A	・来年度はすべての学年でフロンティア探究の時間を中心に行うことになるので、SSHとの連携を密にし、キャリア教育を体系的に組み込み、内容の充実を図っていく。 ・課外や学習会、課題等生徒の実態を把握する中で、質・量において教科間での連携を図りながら効果的な取り組みを行っていく。 ・他の分掌や学年との連携を図る中で、探究活動をはじめとする生徒の主体的な活動を深めていく。
5	スーパーサイエンスハイスクールにおける主体的・協働的な探究活動を深め、課題解決能力を育てる	学校設定科目「フロンティア探究」を通して課題研究に全校で取り組み、学びに向かう力をつける 高大接続プログラムを開発し、ポートフォリオやルーブリックの研究を行う サイエンスイングリッシュや研修旅行を通じて、実践的英語力を育成する	研究発表会 生徒・教員アンケート実施 ポートフォリオ ルーブリック サイエンスイングリッシュ 連携校の選定	・1年生は「フロンティア探究Ⅰ」、2年生は「フロンティア探究Ⅱ」において全員が課題研究に取り組み、発表まで至ったことは評価できる。 ・1年生全員にバンダ型の本校独自のポートフォリオを導入した。実験ノートとしておむね機能している。 ・サイエンスイングリッシュはおむね順調である。一方、海外交流校の選定はできなかった。	B	・生徒の、質問する力を育てながら課題研究をさらにレベルアップしていく。3年生を対象とした「フロンティア探究Ⅲ」を開発し実行する。 ・3年間の学びを概観するページを設けるなどポートフォリオを改訂していく。 ・海外の提携校を決め、スカイなどを通じた交流を始める。

学校関係者評価	
実施日(平成31年3月5日)	
評価	意見・要望等
3	・相互授業参観などにより、指導法の工夫に取り組む姿勢が伸張しており、授業改善が期待される。 ・課題の有効な機能に対する、教員・生徒の評価が低下傾向にあるが、量、質、計画性のいずれに改善の余地があるのか、検討する必要がある。 ・知識の詰め込みだけでなく、活用力、応用力がある生徒が多いと思うので、新しい時代に求められる資質能力のより一層の伸張を図る工夫を重ねてほしい。 ・教職員の多忙化の課題はあるが、生徒に対する指導をさらに改善していく熱意と努力を今後も継続していただきたい。
4	・自主報告を取り入れたボランティア活動は大きな成果をあげており、まさにAL(アクティブラーニング)の一環とも考えられることから、より一層の推進を期待したい。 ・親子関係を深めるために、PTAが生徒と一緒に参加できる学校行事を増やすことができてよいか。 ・交通指導や安全教育にきめ細かく取り組んでいることが窺える。事故件数が減っているのは、事例報告などの具体的な指導を機を逸することなど行っている成果ではないかと思われるので、引き続き取り組んでほしい。 ・道徳教育に関しては、評価が上がっている。その他の項目についてもいずれも好評評価になっているが、豊かな心育成は重要項目であるので、引き続き十分に対応をお願いしたい。 ・生徒の心の問題に向き合うのは、先生方の負担も大きいと思うが、外部との連携も含めて指導体制の工夫をしてほしい。
4	・限られた時間の中で、文化・体育活動の準備や練習を展開する生徒や指導者の姿勢を見て取ることができ、こうした中で生徒の課題解決能力が高まるのをはじめと感じた。 ・学園祭や歌声コンクールをはじめとして、地域・保護者に開かれた質の高い文化活動に敬意を表する。 ・体育系の外部指導者だけでなく、文化活動においても幅広い外部人材の活用を検討してみてもどうか。 ・教員の多忙化の課題もあるが、学校の活性化には部活動の充実が重要と思われるので、より一層の工夫をお願いしたい。
3	・キャリア教育に関しては、3年間を見通した体系的・計画的な実践が進められていると思われる。SSHの活動とも関連させながらより一層の内容の充実が図られることを期待している。 ・高校3年間で人生は決められない。幅広い視野をもって進路を考えられるような人材を育ててほしい。 ・課外や学習会の実践と、先生方の働き方改革との調和を考えた将来展望を研究してほしい。 ・教育改革の流れの中で、主体的な活動、探究活動、アクティブラーニングと言葉は踊るが、学校、家庭、社会体制の整備も含めて時間はかかるかもしれないが着実に改革を進めてほしい。
4	SSHの活動は、甲府南高校の特徴を生かした取組がうまく機能している。通常の授業とのバランスを考えながら、探究活動をより一層充実させてほしい。 ・先生方の負担が気になるところだが、SSHが高大接続、アクティブラーニングの一つのキーワードとなると感じた。 ・ポートフォリオ、サイエンスイングリッシュ、フロンティア探究の推進に期待している。 ・世界を見てから日本(山梨)を見て、自分の進む道を決めてほしい。海外の提携校との交流を深めることを期待している。